

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 5. 17

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

「聞き取り調査」順調

—— 神院大との協働作業、将来は貴重な歴史資料に ——

年初から準備を進め、4月から始めている『聞き取り版「人・街・1995・1・17」』は長田区職員についてはほぼ終わり、他部局へ人事異動した職員へと移っている段階である。

今回の取り組みは、震災の1年後の1996年1月17日に発行した職員記録誌には載せることができなかったことや、書き綴れなかった事柄等を言葉で表現していただく。ちょうど10年という歳月は物事を冷静に見つめ直す期間でもあると言える。

震災直後の区の災害対策本部の体制は、絶対的な人手不足のため、体制らしきものは取れないままで推移して、10日目くらいになって長田区独自の災害対策本部体制をつくり、目前の課題を順次処理していった。



新たに作った組織として海外からも来る安否確認の電話対応の情報連絡・広報班、コスモ石油を救援物資基地とした物資班、ボランティア班、そして避難所班を設けたり、り災証明、義援金・見舞金、被害再調査の業務は既存の所属に割り当てて、他部局や他都市からの大量の応援を得て機動的な体制となっていた。

今回の「聞き取り調査」はそれぞれの主要なセクションを網羅する形で進められており、「戦後、日本で起こった都市型大規模災害に初めて立ち向かった神戸市職員の経験は、将来に予想される大規模災害の際に指針となったり、後世に検証すべき貴重な歴史資料となる」と考えている。なお調査は神院大と協働で行い、録音テープ、文字起こししたデータは当資料室で保存していく。

《 聞き取り調査の項目 》

- ①自身の被災状況について
- ②区役所に駆けつけてからの対応について
- ③区役所内での担当をどのようにして決めたのか
- ④復旧過程のなかで、担当した仕事について
 - ④-1 どのような仕事内容なのか
 - ④-2 その仕事で苦勞した部分はどこか
 - ④-3 指示された仕事と、
自分で自主的に対応した仕事は？
- ⑤復旧作業のなかで、何が大切だと感じているか
- ⑥もし、将来、大規模災害が発生したとき、
市の職員が心がける点は？
- ⑦もし、また、大規模災害が起きた時、
対応できるか

鵜越の坂落し、源平町

4回の国勢調査を比較して⑩

源平町は南西向きの坂の町である。

萩乃町から続く道路には「六甲全縦」の案内板が目につく。

長田区の東端を走る神戸電鉄有馬線と西神戸有料道路に挟まれた山の斜面が源平町である。この町への出入口は西神戸

有料道路からと神鉄鵜越駅からの檜川町から神鉄の軌道下のトンネルをくぐって入ってくる道となる。

震災時、家屋は151棟あって全壊率5%と被害は少ない地区で、被災したままの宅地は2・3筆である。5階建て(29戸)のマンション1棟と文化アパート4棟があり、これ以外は全て戸建である。1955(昭和30)年、112世帯504人であったのが1975(昭和50)年672人とピークを迎え、1995(平成7)年以降は2割近い減少になっている。世帯のピークは震災直後である。

ところで町名の源平町は1941(昭和16)年にできたが、源平の古戦場に近いことから付けられた。

源平の合戦で有名なのは義経の鵜越の坂落しである。落合重信先生が書かれた「長田の歴史」(長田区役所発行)には『一の谷か、鵜越麓かの二説分かれるが、これは論なく鵜越麓でなければならない』といい、その理由を4つ挙げているが、その一つに『義経が本隊を土肥実平(和田義盛とも)に授けて、少数精鋭を率いて鵜越路に入ったということは、敵の東・西両軍に対して中央突破をねらったものである。それが一

	1955年	1965年	1975年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年
世帯数	112	149	194	213	210	218	189	165
人口	504	615	672	645	601	564	464	387
男	248	287	334	314	281	259	216	178
女	256	328	338	331	320	305	248	209
区人口	189,767	214,345	185,974	148,590	136,884	96,807	105,464	103,771

鵜越麓



の谷に出たのでは、軍を分けた意味がなくなる。それに鵜越路をとってのちに、一の谷に出るのは困難である。そのためにはずいぶん無理なことを言わなければならないことになる。』とある。

「長田区内には源平勇士の碑が多い。その碑のある場所必ずしも戦死の場所というのではないけれど、明泉寺(大日寺)に平知章の碑、名倉町に平盛俊の碑、さらに、村野工校西の川沿いには「源平勇士の碑」の場所があって、平通盛・平知章、源氏方の猪俣小平六・木村源三則綱・木村源吾重章などの碑が並び、四番町八丁目には平知章を救おうとして討ち死にした家来の監物太郎頼方の碑がある。

さらに駒ヶ林にゆくと、平忠則の腕塚と胴塚とがある。